

第2次深谷市公共施設適正配置計画（原案）に対する

パブリックコメントの結果【概要】

令和4年12月15日（木）から令和5年1月27日（金）までの44日間、パブリックコメントを実施した結果、13名の方から御意見が寄せられました。なお、御意見の概要は以下のとおりです。

意見の概要	件数
川本農業者トレーニングセンターの存続を求める意見	13件
わんぱくランドの存続を求める意見	2件
川本サングリーンパークの存続を求める意見	3件
川本農業総合地域施設の存続を求める意見	7件

第2次深谷市公共施設適正配置計画（原案）に対する

パブリックコメントの結果【概要】

No.	ページ 項目名	御意見の概要
1	<p>P27</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川本農業者トレーニングセンター ・川本農業総合地域施設 	<p>川本農業者トレーニングセンター及び川本農業総合地域施設は、川本南地区に存在する唯一の公共施設であり是非存続をお願いしたい。</p> <p>その理由として、災害時の住民の避難場所として重要な役割を果たしている。災害は、荒川増水による河川氾濫だけでなく、地震による建物被害、大火事など多種多様な災害がある。災害時に、公共施設としての役割を果たすため存続を求めます。</p> <p>数年前の、荒川増水時に於いても、避難場所として花園公民館や藤沢公民館へ避難誘導がありました。川本南地区は、荒川を挟んでおり高齢者の避難に於いても近隣の避難場所が是非とも必要です。</p> <p>また、深谷市主催の畠山重忠公に関する施設めぐりなどに於いても集合場所として、重要な役割を果たしている。</p>
2	<p>P27</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川本農業者トレーニングセンター ・川本農業総合地域施設 	<p>川本農業者トレーニングセンター及び川本農業総合地域施設の存続を願います。</p> <p>川本地区は北部地区公民館より面積が広く、中心に荒川があり、他の地域とは条件が違う。人口が減っているが、3,900人が住んでいて、山王用水事務所としての利用、体育館、集合場所や駐車場、投票場として利用されている。</p> <p>現状設備の利用で新規投資は少なく済み、人の使い方を考えれば人件費も減少すると思う。</p>
3	<p>P27</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川本農業者トレーニングセンター 	<p>川本農業者トレーニングセンターは、地域市民の集う場所として活用している。(クラブ活動等)</p> <p>旧川本町は荒川により分断されており南地区は、防災上の拠り所として住民は意識している。</p> <p>施設の老朽化は、やむを得ないとしても、古くは役所として地域住民は共有している所である。</p> <p>以上の様なことから防災上からも市民集いの場所としても荒川を越えて対岸地区へ行くことは抵抗を感じる。</p> <p>何かの型で残置し活用の場としてもらいたい。(防災公園的なもの)</p>

4	<p>P 2 7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川本農業者トレーニングセンター ・川本農業総合地域施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・川本農業者トレーニングセンターは、子供から高齢者まで幅広い年代で多く利用しています。廃止されますと交通手段の限られる子供や高齢者などは新しい施設への移動が困難になります。 ・災害時の避難場所が川本南小だけでは地震や大火事等に対応できない場合に他に避難場所がなくなります。 ・川本地区には、畠山重忠公ゆかりの場所が多くあり、令和4年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で重忠公が全国的に知れ渡り深谷市でも盛り上がりました。この盛り上がりを一過性のブームで終わらせず、地域活性化の為に「畠山重忠公記念館」としてリニューアルしてはいかがでしょうか。(代替可能の為、廃止するのであれば、別の機能を持たせてリニューアルできないでしょうか)
6	<p>P 2 7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川本農業者トレーニングセンター 	<p>川本農業者トレーニングセンターについては、学生はもとより高齢者も多く利用しており廃止となればサークル活動が難しくなったり、出来なくなる団体もあります。</p> <p>又、体育施設は災害時の避難場所として必要と思います。</p> <p>トレーニングセンターの近くには「畠山重忠公史跡公園」があります。市街地に「渋沢栄一記念館」がありますが、同様に畠山重忠記念館として残してはいかがでしょうか？</p>
8	<p>P 2 7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川本農業者トレーニングセンター ・川本農業総合地域施設 	<p>災害時の避難場所が南小だけでは少ない。何か所か残してほしい。</p>
9	<p>P 2 7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川本農業者トレーニングセンター ・川本農業総合地域施設 	<p>災害時、川本南地区の避難場所が少なくなってしまう。橋を渡っての避難は危険であると思う。又、交通手段が限られてしまう。高齢者や小中学生が歩いて橋を渡っての移動は、かなり困難であると予想されます。(暑い日、風が強い日、雪等)</p>

10	<p>P27</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川本農業者トレーニングセンター ・川本農業総合地域施設 	<p>災害時、川本南地区の避難場所が少なくなってしまう。橋を渡っての避難であると思います。(南地区からの新施設への避難の場合)</p>
11	<p>P27</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川本農業者トレーニングセンター ・川本農業総合地域施設 	<p>交通手段の限られる中学生や高齢者などが活動するための場がなくなってしまう。</p>
13	<p>P27</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川本農業者トレーニングセンター 	<p>当該施設は、荒川の南、本田・畠山地区に設置されている、現在ただ一つの行政施設であり、集約化・廃止に反対し、縮小化・継続を希望します。</p> <p>1) 過去には本田・畠山地区にも支所、公民館があったが、既に廃止され当該施設がただ一つの行政施設である。郵便局、JA(農協)が本田・畠山地区に支所を置いているのに行政施設が無くなるというのは、住民サービスの放棄とも受け取られかねない。</p> <p>2) 本田・畠山地区にただ一つ残る行政施設であり、廃止されると</p> <ul style="list-style-type: none"> a 選挙時の投票 b 体育室の利用 <p>に荒川の橋を渡り、北の武川地区までの移動を強いられる。</p> <p>この地区は民営バス、コミュニティバスがなく、自家用車がないと移動に困る地域である。自家用車の使用ができないと、徒歩や自転車等で移動をしなければならず、高齢者に対する配慮を欠いたものと言わざるを得ません。</p> <p>3) 行政施設は「地元」にあり、近距離であることが一番の住民サービスです。</p> <p>ただ一つの行政施設を残して戴くことを希望します。</p>

公共施設の再編について

本市が保有する公共施設の多くが昭和40年代から昭和50年代にかけて整備され老朽化が大きな課題となっており、施設に係る経費が増加傾向にある中、将来を見据え最適な施設保有量となるよう平成25年度から令和34年度までの40年間の長期的な公共施設の方向性を示す深谷市公共施設等総合管理計画（以下「総合管理計画」）及び平成25年度から令和4年度までの具体的な方針を示した（第1次）深谷市公共施設適正配置計画（以下「1次計画」）を策定し取り組んで参りました。

総合管理計画で試算した平成25年度から令和34年度までの40年間にかかる更新費用の総額は約1,463億円で、試算期間における平均費用は、年間約36.5億円となります。一方で、現在の予算規模で公共施設の整備に充てることができる平均金額は、年間約28.5億円であり、年間約8億円の財源不足となるものです。この財源不足を解消するため公共施設の総延床面積を40年間で25%削減することを目標として公共施設の再編を進めているところです。

1次計画の主な実績では、岡部地区において、新岡部公民館の建設に伴い総合支所、公民館、図書館の機能を複合化し、代替可能な体育館機能を有する1施設、コミュニティ機能を主とする2施設を集約化し、6施設を1つの施設に再編いたしました。

この取組により削減面積約4,000㎡、削減効果額については、約23.6億円を達成したものです。

現在の進捗状況については、施設全体の削減率が約4.5%、更新費用については、年間約1.6億円の削減を図ることができましたが、目標達成するためには、引き続き公共施設の再編を進めて行く必要があるものです。

第2次深谷市公共施設適正配置計画の再編方針としては、「施設ありき」でなく、施設の「機能」を重視し、機能拡充しつつ、「施設」を削減していく発想で再編を推進していくものです。このような考え方から、川本地区には約20億円の事業費を投じて川本複合施設を整備し、機能拡充することで複合化・集約化を進めて参ります。

No. 1～4、No. 6、No. 8～11、No. 13に対する市の考え方

再編方針に基づき川本農業者トレーニングセンター及び川本農業総合地域施設は、老朽化が進行しており、施設を安全に維持していくためには、修繕・改修等に多額の費用が見込まれることや同機能を有する川本複合施設が建設されることから再編とする施設です。

再編後の跡地活用につきましては、再編を進めて行く中で関係部署と連携を図りながら市にとって最適な活用が図れるよう多角的に検討し進めて参ります。

また、川本農業者トレーニングセンター及び川本農業総合地域施設の再編について関連する山王用水事務所の移転や代替となる投票所につきましても、支障をきたすことがないよう十分に配慮しながら関係部署と調整し進めて参ります。

避難所・避難場所の確保に関しましては、市が所有する施設だけではなく、他の施設にもご協力いただけるよう調整を進めているところです。

施設までの交通手段につきましては、多くの施設利用者の方は、自動車やバイクを使用し来場しているものと考えられますが、川本南地区に限らず自動車等を利用できない高齢者や子どもなどにおいては、市内の公共交通による移動手段としてのコミュニティバスや公共交通機関をご利用いただいきたいと考えております。

なお、集合場所につきましても、代替可能な施設として自治会館や集会所なども検討していただければと存じます。

公共施設の再編については、少子高齢化の進行や人口減社会の到来など社会情勢が大きく変化しており、今後、厳しい財政運営が見込まれる中、全市的な視点から将来世代に過度な負担を残さないため、進めて行く必要があることをご理解賜りたいと存じます。なお、計画は、市の方向性を示すものであり、各施設の具体的な在り方については、議会や利用者、地域の皆様のご理解を頂きながら進めるものと考えております。

No.	ページ 項目名	御意見の概要
5	P27 ・川本サングリーンパーク ・川本農業者トレーニングセンター	<p>サングリーンパークは家のすぐ近くでもあり、子供、孫が変形自転車に乗りに行ったり、以前バーベキューでも使用させていただきました。</p> <p>深谷テラスパークでの集約化とありますが、距離がありすぎて、なかなか行けません。</p> <p>川本南地区の広い遊び場を無くさないで下さい。</p> <p>災害時の避難場所が南小学校だけでは対応できないし、高齢者も多くなり橋を渡って新しい複合施設まで行くのは大変です。</p> <p>川本農業者トレーニングセンターはサークル活動でも高齢者が利用されていて南地区の公共施設がなくなると困ります。</p>
7	P27 ・川本農業者トレーニングセンター ・わんぱくランド ・川本サングリーンパーク	<p>川本農業者トレーニングセンターは、子供のスポーツ少年団で長く利用させていただいていました。指導者も子供達も川本南地区の方が多く、トレセンが廃止されてしまうと活動継続に支障がでるのではと思います。災害時の避難場所が南小学校だけとなり対応できるか不安があります。</p> <p>子供達が小さい頃、わんぱくランドと川本サングリーンパークの変形自転車は、かなり利用させていただきました。今もたくさんの方に利用されています。深谷テラスパークで代替可能とは思いません。</p>
12	P27 ・川本農業者トレーニングセンター ・わんぱくランド ・川本サングリーンパーク	<p>わんぱくランドと川本サングリーンパークは、アウトレットの公園とは機能が違うのでなくさないでほしい。</p> <p>川本サングリーンパークは、変形自転車やグラウンドゴルフ、さくら鉄道など、わんぱくランドについては、バッテリーカーや迷路、グラスライダーなどがあり子どもたちは楽しんでいます。なくさないで欲しいです。</p> <p>川本農業者トレーニングセンターの存続を望む。川本複合施設では橋を越えなければならず、行くことができない。スポーツをする場を川本南地区からなくさないで欲しい。</p>

公共施設の再編について

本市が保有する公共施設の多くが昭和40年代から昭和50年代にかけて整備され老朽化が大きな課題となっており、施設に係る経費が増加傾向にある中、将来を見据え最適な施設保有量となるよう平成25年度から令和34年度までの40年間の長期的な公共施設の方角性を示す深谷市公共施設等総合管理計画（以下「総合管理計画」）及び平成25年度から令和4年度までの具体的な方針を示した（第1次）深谷市公共施設適正配置計画（以下「1次計画」）を策定し取り組んで参りました。

総合管理計画で試算した平成25年度から令和34年度までの40年間にかかる更新費用の総額は約1,463億円で、試算期間における平均費用は、年間約36.5億円となります。一方で、現在の予算規模で公共施設の整備に充てることができる平均金額は、年間約28.5億円であり、年間約8億円の財源不足となるものです。この財源不足を解消するため公共施設の総延床面積を40年間で25%削減することを目標として公共施設の再編を進めているところです。

1次計画の主な実績では、岡部地区において、新岡部公民館の建設に伴い総合支所、公民館、図書館の機能を複合化し、代替可能な体育館機能を有する1施設、コミュニティ機能を主とする2施設を集約化し、6施設を1つの施設に再編いたしました。

この取組により削減面積約4,000㎡、削減効果額については、約23.6億円を達成したものです。

現在の進捗状況については、施設全体の削減率が約4.5%、更新費用については、年間約1.6億円の削減を図ることができましたが、目標達成するためには、引き続き公共施設の再編を進めて行く必要があるものです。

第2次深谷市公共施設適正配置計画の再編方針としては、「施設ありき」でなく、施設の「機能」を重視し、機能拡充しつつ、「施設」を削減していく発想で再編を推進していくものです。このような考え方から、川本地区には約20億円の事業費を投じて川本複合施設を整備し、機能拡充することで複合化・集約化を進めて参ります。

No. 5、No. 7、No. 1 2 に対する市の考え方

再編方針に基づき川本農業者トレーニングセンター及び川本農業総合地域施設は、老朽化が進行しており、施設を安全に維持していくためには、修繕・改修等に多額の費用が見込まれることや同機能を有する川本複合施設が建設されることから再編とする施設です。

わんぱくランド及び川本サングリーンパークについても電気設備など老朽化が進行しており、施設を安全に維持していくためには、修繕・改修等に多額の費用が見込まれることや深谷テラスパーク、令和8年度に完成予定の幼稚園・こども館複合施設、埼玉県農林公園が子供達の遊べる場所であることから同機能と捉え代替可能な施設とし集約としたものです。

なお、避難所・避難場所の確保に関しましては、市が所有する施設だけではなく、他の施設にもご協力いただけるよう調整を進めているところです。

公共施設の再編については、少子高齢化の進行や人口減社会の到来など社会情勢が大きく変化しており、今後、厳しい財政運営が見込まれる中、全市的な視点から将来世代に過度な負担を残さないため、進めて行く必要があることをご理解賜りたいと存じます。なお、計画は、市の方向性を示すものであり、各施設の具体的な在り方については、議会や利用者、地域の皆様のご理解を頂きながら進めるものと考えております。